

## 三重県環境審議会第2回水質部会 議事概要

令和3年10月28日(木)

13時30分から15時30分まで

### 1 開会

### 2 議題等

#### (1) 第9次総量削減に係る総量削減計画及び総量規制基準の検討について

[主な質疑応答]

- ・溶存態窒素(以下DIN)がクロノリの色落ちに関係しているのですか。  
また、ハマグリは湾奥で減少しており、津以南で増加していますが、これもDINに関係しているということですか。

→DINはクロノリの色落ちに関係しており、三重県の沿岸域ではDIN濃度が不足しています。二枚貝については、産卵のネットワークなどの影響があるため、栄養塩類だけでは説明できません。特にハマグリについては、桑名の資源から産卵された浮遊幼生が、松阪や伊勢の沿岸域に供給され、定着したものと考えられます。(水産研究所)

- ・クロノリの生産性と栄養塩濃度の現状について、もう少し詳しく説明をお願いします。

→クロノリ生産量は湾奥部の桑名で少なく、鳥羽で多い状況となっています。湾奥は栄養塩が豊富ですが、木曾三川河口域付近では、塩分濃度や潮位などの変動があるため、クロノリ養殖が難しい漁場です。鳥羽は高塩分で、潮流性がある地域です。湾内でも場所によって漁場の塩分濃度や潮流など状況が異なることが三重県の特徴です。このように栄養塩類以外の状況も影響していると考えられます。

(水産研究所)

- ・湾奥と比較して湾口では、流域下水処理場の影響が大きいので、管理運転が効果的と考えているということでしょうか。管理運転はオペレーションとして現場で簡単にできるのでしょうか。

→伊勢湾の中南部で栄養塩類濃度が低いので、県管理の流域下水処理場の栄養塩類管理運転により効果を確認していきたいと考えています。(事務局)

また、総量規制基準値を柔軟に適用してもらえれば、よりやりやすくなると思います。(下水道事業課)

- ・提案のあった「三重県の管理方針(案)」について、伊勢湾の現状をふ

まえて、管理方針の提案に至ったロジック（経緯・理由など）を整理しておいたほうが良いのではないのでしょうか。

→伊勢湾の三重県側の沿岸域では、主に窒素が減少しているので、窒素を供給する方向で進めていきたいと考えています。しかし、現在、窒素の管理運転は試験段階であるため、りんのみを先行して実施しています。最終的には窒素・りんの両方の管理運転ができるように考え、管理方針（案）の整理提案をさせていただいています。

「三重県の管理方針（案）」に基づき設定した、目標値の設定理由等についてわかりやすく、整理するようにしたいと思います。なぜこのような方針で進めていくのか、またどうやってフォローアップしていくのかについては、第3回水質部会において整理の上、検討していただきたいと考えています。栄養塩類管理運転も含めて、県としてどのような取組を進めていくことができるのか考え、計画策定に盛り込んでいきたいと思っています。（事務局）

## （2）その他

次回開催予定：令和4年1月下旬～2月上旬

## 3 閉会